

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは4号館		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 5日	～	令和8年 3月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 5日	～	令和8年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 2月 5日	～	令和8年 3月 13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4	(回答数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員だけでなく、事業所内の他職種の職員と連携をとり、支援に繋げることができる。	訪問後には、必ず昼礼や終礼で全職員に訪問の内容を共有し、どのような支援ができるか案を出し合っている。事業所内の療育についても訪問先に伝え、共通理解を図るようにしている。	支援開始前の打ち合わせをしっかりと行うことで連携を図り、よりよい支援を行えるようにする。
2	保育所等訪問支援を利用している児童は、児童発達支援や放課後等デイサービスを併用している為、学校の様子と事業所での様子を比較しながら支援ができる。	訪問支援で見た課題を事業所利用時にも評価し、その内容を学校とも共有して同じ方向性で支援ができるようにしている。	療育現場と教育現場で行える支援は異なることを理解し、支援を行う際には先生の負担や周りの児童への影響を考え、配慮する。
3	事業所内で関わっているスタッフが訪問先へ行くことによって、児童とスタッフ間での信頼関係が構築され、本来の児童の様子を伺うことができていると思う。	訪問支援時には、本児の学校生活が伺えるよう、緊張感を与えないように声掛け等を工夫しています。	本児が安心・安全に学校生活を送れるよう訪問先の先生とも密に情報共有を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所利用時は、個別支援が多い為、集団活動での評価をする機会が少ない。	児童一人ひとりの言語や特性に合わせた支援が中心で、個別での支援が多くなる傾向にある為。	訪問支援で見た課題で必要であれば、事業所利用時にも集団活動を取り入れるよう工夫する。
2	児童デイでの経験は重ねているが、訪問支援員としての経験が浅い為、経験を積んでいく必要がある。	訪問支援員としての経験のあるスタッフが少ない為、経験を積んでいる段階。	法人内での事例検討会や研修に積極的に参加し、適宜アドバイスをもらい、支援に繋げていく。
3	保護者会がない為、保護者同士の悩みを共有したり、コミュニティを作る機会が少ない。	事業所内で保護者が参加できる研修を開催し、保護者が集まる機会は設けているが、保護者同士の交流の場としての認識には至っていない。	今年度の保護者研修会に参加した保護者以外にも、研修会へ興味を持ってくださっている保護者が多い為、保護者研修会の開催に加えて、保護者同士での交流も行えるように環境設定を行う。